

北海道高体連 登山大会 審査基準 (選手用)

大項目	小項目	配点	内 容
行動	体力	40	<ul style="list-style-type: none"> ・行動日の登山内容の軽重に応じ点数を配分 ・以下の項目に該当する場合、その程度に応じ減点 余力の有無、疲労度、体力配分、パーティ内での離れ、前パーティからの離れ、隊からの離れ、行動不能(リタイア) ・基本的な基準 リタイアすればその日の体力は0点、隊からの大幅な離脱状態は大幅減点、隊からの遅れの繰り返しはその程度に応じて減点する
	歩行技術	10	<ul style="list-style-type: none"> ・行動日の登山内容の軽重に応じ点数を配分 ・以下の項目に該当する場合、その程度に応じ減点 スムーズさ(足のふらつき、つまづき、スリップ)、リズム、バランス、ペース(走らない)、悪場(雪渓を含む)などでの行動、転倒、転落、落石、登り下りの歩幅、足場・ホールドなどの選択等
生活	装備	10	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な装備を所持しているか、その量が適切か … 4点(詳細は備考欄) ・必要な医薬品を所持しているか、その量が適切か … 2点(詳細は備考欄) ・行動中の装備状況は良好か … 4点(詳細は備考欄)
	設営撤収	5	<ul style="list-style-type: none"> ・10分以内に設営 ・以下の項目について、その程度に応じ減点 * 仕事分担・連携は適切か、設営具の量と使い方、予備品の有無、設営中の荷物の処理、ザックを入れて終了 * ベグ・張り綱の適否、フライの取り付け状況、チャックが閉まっているか、チャックが閉めにくいのか、テント内の荷物は整理されているか * 行動出発後、ベンチレータ・チャックなどが閉めてあるか、内部が整理されているか張り綱などが緩んでいないか、ごみ・燃料・食料の処理が適切にされているか
	炊事	5	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の項目について、その程度に応じ減点 炊事用具(コンロ)の整備状況・使用法・安定設置・燃料の量(過多, 過少は減点) 食料計画と実際の一致、内容の適正(レトルトのみ、過多は減点)、残飯・ゴミの量腐敗対策、衛生的な調理等
知識	気象(1人)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りを含め、40分以内に完成させ、以下の項目について審査する 各地の天気 … 1.2点 高・低気圧、前線等の位置 … 1.6点 等圧線の記入 … 0.8点 実況解析、予報 … 0.4点 ・詳しい採点基準は、登山部報の統一学習資料「登山と気象知識」、Ⅱ「地上天気図の書き方」に準じる。
	計画記録	5	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書…2点 必要事項が記入されているか。 量(全部でA4版3枚以内(A6で両面印刷24ページ以内))、緊急連絡先(選手の自宅でも可)、メンバー表、日程、装備表、食料計画、山域の研究(概念図・断面図等)、研究課題、医薬品リスト ・記録書…3点 事後の山行に役立つ記載がされているか 配布された冊子に、記載する地点(スタート地点+主要地点+休憩地点+ゴール地点)の出発・到着時間、または通過時間の記入、天気、コース概況、自然観察(地形・植生含)、メンバーの様子など記入されているか
	行動中テスト	5	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の項目について審査する 地点確認(パーティーで相談の上) … 2点 登山に必要な知識・自然に関すること等(隊長より) … 3点
	ペーパーテスト(3人)	12	<ul style="list-style-type: none"> ・安全登山を中心に、基礎的かつ必要な知識について出題する。 会場の山域(登山コース、自然、地形、等)について 登山の基礎知識(読図、気象、救急法、安全登山、用語、等)について 研究課題について ・山域の各地点の標高など読図すれば得られる情報については出題しないが、大会における目的の山頂の標高程度は出題される

大項目	小項目	配点	内 容	担当
態度	パーティ シップ マナー モラル	4	<ul style="list-style-type: none"> 以下の項目を中心に審査する 集合時間や就寝時間など、時間を守った行動をしているか 動植物の保護、ゴミ処理などの環境保護に配慮した行動をしているか 登山のマナー(投石等の危険行為をしない、言動素行など)を守った行動をしているか CL、SL、メンバーの役割を果たしているか パーティーのまとまりはあるか テント、ザック(含カバー)(直接記入可)、に見やすく記名されているか 帽子にゼッケンが正しく装着されているか等 	

備考

【装備】

* 個人装備

《全装行動》食器、寝袋(収納時要防水)、メインザック
《サブ行動》雨具(上下・防水加工)、防寒具、水筒(ペットボトル代用可)、ヘッドランプ(絶縁)、予備電池、タオル等、計画書、記録書、地形図、磁石・コンパス、筆記具、呼笛、サブザック、ザックカバー、手袋(軍手)、帽子(紐付き・ゼッケン付き)、細引(4～6mm×5m)、マッチ(ライター)、ナイフ、ビニール袋(ゴミ袋、レジ袋)、非常食(1000kcal)、行動食、スパッツ、真水 500mL 以上、防寒シート(アルミ素材など)、携帯トイレ

* 共同装備

《全装行動》テント一式、炊事用具一式(コンロ台・衛生シートを含む)、予備食
《サブ行動》ツェルト、救急薬品一式(要防水)、修理具、ラジオ(絶縁)、コンロ、燃料、金属食器(加熱できるもの)、熊撃退スプレー

* 行動中の装備状況

ザックのパッキング状況、帽子、手袋の使用状態、風雨の対策、靴ひも・スパッツの状態、装備に工夫はあるか、手に不要なものを携行していないか、服装の不備等

【確認事項】

- ・救急装備一式は、消毒薬・虫さされ薬・湿布薬・カットパン・体温計・テーピング(幅 35mm 以上、巻きの厚さが 1cm 以上)・三角巾・包帯を所持する。薬品の量は、2人分2日分を目安とし、防水・衛生に注意する。風邪薬・整腸剤(胃腸薬)・鎮痛(解熱)剤等は必要ならば個人で所持する。
- ・修理具は、ペンチ、針金、針と糸、リペアテープまたはガムテープを含む。
- ・ラジオ、ヘッドランプについては、絶縁を施すこととする。ただし、ロック機能や電源が入らない工夫があれば、絶縁の必要はない。
- ・サブ行動時のコンロ、燃料、金属食器は、非常時にお湯を沸かし飲めるための物とする。
- ・防寒具はウール素材かフリース素材、羽毛素材で、防寒機能がついているものとし、上衣(フリース等)があれば可。
- ・行動食と非常食は区別し、量も問われる。
- ・予備食は下山が遅れた時などに対応するもので、通常の食事に準ずる内容のものである。コンロを使用することを前提に、1人あたり 300kcal 以上のもの1食以上をパーティとして持参する。また通常の食料と区別がつくよう、予備食であることを明記する。
- ・非常食は、食料計画の中で種類・量(目安は 1000kcal)を明示し、個々人で持参する。
- ・テント用具一式にはテントシートが入らなくても良い。
- ・炊事用具一式にコンロ台(もしくは分離型は輻射熱対策にバーナーシート、一体型は安定のため三脚)が必要。
- ・まな板はベニヤ板等の代用でよいが、コッヘルのはふたは不可。衛生シートは必携。
- ・サブザックは必ずしもメインザックの中に入れなくてもよいこととするが、大会中に全装行動がある場合は、メインザックのみでの行動とする。
- ・下肢を露出する短パン、スカート等は不可とする。
- ・燃料の量は過剰装備にならないよう注意する。全道大会の日程・食糧計画であれば、満タンのガスカートリッジ(レギュラーサイズ)、4個(上限)までを基準とする。・ガスコンロは禁止。
- ・大会中 GPS・高度計・GPS および高度計機能付の電子機器(所持については不問)は使用してはいけない。携帯電話も同様だが、隊長判断で使用を認める場合がある。
- ・炊事用具、設営用具の不備については「炊事」「設営」の項目で行う。

その他の審査基準は最新の登山部報に準ずる
令和8年5月7日改訂 北海道高等学校体育連盟登山専門部